

平成 16 年 11 月 25 日 決算発表 質疑応答（大阪）

発表内容：平成 16 年度中間決算発表について

日 時：平成 16 年 11 月 25 日（木）16 時 00 分～16 時 37 分

場 所：日銀金融記者クラブ（大阪）

発表者：弊社川田社長、深井執行役、大橋財務部グループリーダー

【質疑応答】

Q．中小企業向け貸出の状況は？

A．4 行合算で、残念ながら 3 月末比 2,762 億円ほどマイナスになっております。りそな銀行で 3,610 億円のマイナス、埼玉りそな銀行で 1,639 億円のプラス、近畿大阪銀行で 822 億円のマイナス、奈良銀行で 31 億円のプラスでございます。健全化計画上の中小企業向け貸出とは違いますのでお断りしておきます。総じて、全体で弱含みとなっております。

Q．下期に向けての回復の見通しは？

A．下期は、増加の計画をしております。

Q．年間 4,000 億円の新規貸出の実行計画に対する実績は？

A．年度 4,000 億円の実行計画ですから、上期・下期で 2,000 億円ずつ実行すればいいということですが、上期の実績は 1,700 億円程度です。未達は未達ですが、善戦はしていると思います。貸出金全体としては、新規実行額以上に既存先の（貸出金）落ち込みがあり、また、オフバランス化の影響等もありまして弱含みです。（貸出）債権の質のところ、ご説明いたしました、入れ替わりがございます。

Q．中小企業向け貸出には、住宅ローン残高も含むのか？

A．この決算では、含みません。

Q．人件費がかなり減少しているが、要因は何か？

A．人件費削減の大きな要因は、人員削減の影響が大きいです。健全化計画でもお話ししましたが、本年 7 月に人事制度を改定いたしまして、年に 1 回の業績インセンティブ給を来年から支給する予定です。これは、計画を達成すれば、支払いますと経営が従業員に対してコミットしているもので、より組織的に業績向上に向けてドライブしていきたいと考えています。

Q . 現在まで、様々なアライアンスに取り組んできているが、その実績はどのくらいの数字として表れているのか？

A . 昨年の下期から、様々なアライアンスに取り組んでいます、全体の数字に 100 億円単位で影響するような数字は出ておりません。

Q . 投資信託の残高がかなり増加しているが、その要因は何か？

A . 大きく 2 つの理由がありまして、投資信託の販売の担い手の強化に取り組んできた成果が上がってきたことが 1 つ。もう 1 つは、りそな信託の株主でもあるクレディ・アグリコルアセットマネジメントとの提携において、私どもの現場のニーズにあった商品企画をタイムリーに出していただいていることです。お客さまのニーズにフィットしたような商品、例えば、「関西 満載」とか埼玉ファンド（「桜月 彩の国編」）とかといったエリア別の商品を作っていただいております。現場の意見を取り入れて、クレディアグリコルさんと打ち合わせしながら作っていただいております。

Q . 貸出金の利回りはどうか？

A . 16 年 9 月期は 2.07% で、前年同期比 + 0.02% と利回りが改善しておりますが、実際は、この中に不良債権の未収利息の回収分が含まれておりまして、その分を除きました実態ベースでは、0.02% 程度のマイナスとなっております。

Q . 利回りが低下して、資金利益も減っていますが、それを運用でカバーしていると考えていいのか？

A . 運用と申しますか、いわゆるフィービジネス、先程の投資信託であるとか、法人向けのデリバティブ商品であるとか、こういったものでカバーして業務粗利益を増加させているのが現状です。

Q . 今後の収益力の確保の方法は？

A . 着実に貸出金の残高を増加させていくことは当然のことですが、トップラインの業務粗利益を維持するためには、上期にドライブがかかってきたフィービジネスに更に力を入れていこうと考えています。これについては、健全化計画の中でも、比重を高くしております。

Q . フィービジネスの増加で（資金利益を）カバーできるということか？

A . 貸出の増加も計画していますが、それに合わせてフィービジネスも強化して、全体的に業務粗利益を増加させる計画にしております。

Q . 役務取引等利益 359 億円の内訳は何か？

A . 増加した内容を申し上げますと、不動産業務、投資信託、社債の取扱いでかなり増加しております。

Q . 再生勘定が 1 / 3 まで減少したのは、不良債権処理がヤマを超えたということなのか？

A . 再生勘定のほとんどが昨年 9 月に分離した不良債権ですから、まだヤマを超えたという安心は出来ませんが、17 年 3 月末の開示債権比率 3% 台をクリアすることによりまして、再生勘定は更に圧縮できると考えています。

Q . りそな銀行と近畿大阪銀行の貸出金が落ち込んでいますが、関西地域での資金需要はどのような状況なのか？

A . 資金需要は決して強くないという見方をしております。ただ、貸出金の減少要因の大半は、不良債権のオフバランス化です。我々が営業力を強化して、オフバランス化をカバーしても余りある、貸出金の実行が目標です。オフバランス化している残高も徐々に減少しておりますので、下期には（貸出金の減少を）底打ちをさせたいと考えております。

以 上